

# 潮流

大津島(平成24年10月1日現在)  
人口 370人(男158人 女212人)  
高齢化率 69.7%

2012  
11月号  
No.228

題字 安達 照子

## ～平家踊り～



大津島  
大運動会

九月十六日(日) 大津島中学校グラウンドにおいて、「大津島地区大運動会」が行われました。

現在大津島は、中学生が8人。幼稚園児が1人。合計9人です。子供の人数が少ない分、運動会は、地域総出で行います。

玉入れは、若者から八十代までが入り混じり、紅白の玉を投げ入れる姿は、迫力があります。

大津島では、毎年必ず、地域住民と生徒達が一緒に、平家踊りを踊ります。生徒達のキレのある動き、地域住民の長年の深みのある手足のさばき。地域と学校が伝統継承により、一つになる瞬間です。

地域とともに作り上げる運動会は、都会では、決して味わう事の出来ない、温かみと連帯感に満ちています。台風にも負けず、今年も素晴らしい運動会でした。

## 島母さんのお料理教室

### ～ちょっとひと休み～ 誰でも簡単につくれるスイーツ



<材料> 2人前  
さつまいも 400g  
バター(無塩) 30g  
砂糖 60g  
牛乳 大さじ4  
塩 少々  
卵黄 1個分

- <作り方>
- ①皮をむいたサツマイモを小さく切って、塩少々を入れて茹でる。
  - ②バターをレンジで温めて、柔らかくしておく。
  - ③1をザルにあげ、水気をとり柔らかくなったバターを入れ、混ぜ合わせる。
  - ④卵黄、塩少々、牛乳、砂糖を加えて、よく混ぜる。
  - ⑤銀カップに入れ、艶出しに卵黄を塗る。
  - ⑥180℃のオーブンで、5分～6分焼けば、出来上がり。

雀と柿

爽りの秋。やがて収穫の時へと移ろい、空は澄み、スポーツに芸術に心動かされます。深まり行く秋に、故郷が恋しくなりませんか。

涼しさを含んだトンボの一陣の風に、秋の訪れを感じ描いてみました。

無花果

季節の俳画  
安達照子

## 海の街道・二

りんしょう【琳聖太子】



文=末兼 正純

西暦五五二年、百済の聖明王が欽明天皇に仏像経論を献じた。仏教伝来である。

同六一一年、仏教立国を目指す聖徳太子を支援するため、聖明王の第三王子琳聖太子が渡来する。

太子は三田尻に上陸して暫く逗留した後、再び乗船して摂津に上り、聖徳太子に謁見する。聖徳太子は琳聖太子を厚遇し、今の山口市辺りの大内の地を賜った。やがて太子は帰化してこの地に永住する。

室町時代に西国の雄として権勢を誇った大内氏は、琳聖太子がその始祖であるとしている。

防府市右田には太子を葬ったとされる国指定史跡の大日古墳があり、山口市の乗福寺には供養塔がある。

太子渡来の二年前、当時は青柳浦と呼ばれていた下松の松の大木に星が降り、七日七夜にわたって光り輝いたという。太子の渡来を守護するために北辰星が降臨したのだというお告げがあり、人々はこれを祀り、浦の名を下松と改めた。

今も下松駅の北口に松の古木があつて「下松発祥の地、七星降臨の松」と記された石碑が立ち、下松市のキャッチフレーズは「星降る町」である。

琳聖太子は、歴史では伝説とされているが、山口県の歴史に登場する初めての個人名であり、大津島の海の街道を往来した最初の歴史上の大スターであった。

# 潜望鏡



文＝松本 紀是  
(回天記念館館長)

講演や講話で大津島のことを紹介する島が多い。大津島を「長寿の島」と伝えていく。講演や講話で大津島のことを紹介する島が多い。大津島を「長寿の島」と伝えていく。講演や講話で大津島のことを紹介する島が多い。大津島を「長寿の島」と伝えていく。

## 知っちよるかね



文＝松本 千恵子

知っちよるかね。「もめら」っちゅう植物。島の初秋に、薄紫の穂状の花を咲かす球根植物なんよ。この「もめら」を食べる話。

何と三日三晩煮んにゃあ食べられんそうな。昔、旅の坊様が所望したところ、島の者が惜しんで「これ、三日三晩煮んと食べられんものです」と答えたそう。その後からというものの、すぐに食べられよつたもめらは、本当に三日三晩煮んと食べられんようになったそう。よ。そして、くだんの坊様は、あの弘法大師じやつたんだと伝えられよるね。

その上に、もめら、鳴子百合のような「えんみ」という植物の球根、それからツワの硬い茎を入れて、焦がさんように三日三晩煮る。終わり頃には、三つの材料が溶け合い、ほの甘い柔らかい固まりになるそう。それに麦粉をまぶして食べる。どんな味じゃつたんだらう。今では、作る人もいなくなった幻の郷土料理。その味を知った人達に聞いてみると、「えもいわれぬ味で大好きじゃつた」「あねえなものは大嫌い。食べると言われて、面白いくらい好みが真つ二つに別れる。じゃがね。どつちの話をする人もこの話をする時には、皆懐かしそうに話すんよ。それはきつと、何もかも手作業の忙しい時代に、三日三晩時間をかけて作ってくれた母の顔が思い浮かぶからじゃらうね。

## 10月1日より新たにサービス開始！ 大津島デイサービスセンター

この度、センターの増築工事も終わり、真新しい増築部分でのサービスを開始しました。施設は以前に比べ少しだけスマートになりましたが、多々改良を加え、身体にハンディキャップを抱えておられても使いやすい施設になったのではないかと思います。たくさんの方に、新しいセンターを活用していただきたいと考えておりますので、見学やお試し体験も受け付けています。ご希望の方は、事前に電話等でお申込みいただくと幸いです。センター職員一同、心よりお待ちしております。 連絡先：85-2138

## 事務局からのお知らせ

～行事予定～

◆回天烈士、回天搭載戦没潜水艦乗員追悼式  
11月11日 11:30～13:00 場所：回天慰霊碑前

### ★★しめ縄づくり教室★★

◆12月20日(木)  
場所：10時から大津公民館  
14時から馬島公民館  
参加費無料。ハサミのり等持参。問合せは支所。



### ◆やまびこ号の巡回日

11月14日(水) / 12月19日(水)  
●瀬戸浜自治会館 10:40～10:50  
●大津島郵便局前 11:10～11:30  
●馬島巡航待合所 13:00～13:30  
●刈尾巡航待合所 13:50～14:10

### ◆～島おこし隊員ラジオ出演情報～◆

毎月第一金曜日  
7時35分頃 AM765 KRY 山口放送「おはよう KRY」  
11時7分頃 FM76.7 FM わっしょい「Happy minutes」

## 編集後記

前号の感想を多方面から頂き、一同肩をホッと下ろしたと思いきやすぐに、今月号の準備に入りました。今回の松本千恵子さん「知っちよるかね」は、当時の情景が目に浮かんで来て、今も昔も変わらぬ島人の姿や季節感が、描かれています。ふと、思い起こせば、私が初めて大津島に来たのは、ちょうど今頃でした。馬島港で降り、しおかぜ号にまたがって、本浦まで汗だくになりながら、四十分間自転車をこいだのは今でも忘れません。本浦では、のちに大家となる石田敏孝さんから、「あんた採用されれば、ここに住むんだ」と冗談交じりに現在の我が家を紹介されたことを覚えています。あの日から三年。今年で、大家も九十歳。今も現役で頑張っています。いつまでも元気でいてくれる様に、まずは身近な草刈りから、手伝おうと思つこの頃です。

編集員 大友翔太

## ひろしのつぶやき



文＝屋野 廣志

私達が子供の頃は、大津島の山は山頂を残して全て段々島だった。その中に、野面石(のづらいし)を組み上げ段々を作っている所がある。大小様々な野面の自然石を、垂直に近い角度で、巧みに組み上げている。船溜りの防波堤も同様の場所がある。それらは、自然に強く崩れる事はない。

やがてそれは、二段、三段となり、耕地として麦を植え、芋を植える。そしてまた新しく礎石を組み始め、同じ工程を繰り返す。その苦労は計りしれない。やがて耕地は段々と低地から高地に進む。労力は老若男女を問わず、子供は遊びの中で作業を覚え、先祖代々の技を伝承していく。代々造り上げた石組みの耕地は、現在もその姿を守っている。

何世紀も前の若者が、テコ、コロと己の体力で移動し、一個一個の礎石を、何百年先の人々のため、現在の位置に組み上げてくれたのだ。

今は無き老祖父が「この大津島に残すものは無いが、野面石組みの面だけは確保したい」と語られた事を思い出

それは、一個が二個となり、十個と連なり、百個となる。

私には、そんな事を考えながら、解体された校舎跡に立ち、本浦の山頂を見る。

## 島おこし隊員 活動報告



文＝島おこし隊員

隊員ブログ  
<http://i-8996-ozsima.jugem.jp/>

### ◆里の案内人

市の養成講座を修了した28名が「里の案内人」として認定されました。現在、UJターン希望者に提供するための空き家を探しています。大津島で空き家の活用をお考えの方は、大津島支所(Tel85-2001)にお問い合わせください。

### ◆島内交通実証運行

島内での交通の利便性を図るため「うみかぜ号」を10月～翌1月の間、実験的に運行しています。定期的に運行の見直しを行い、より良い交通体制を作っていく予定です。「うみかぜ号」の運行ダイヤに関しては大津島支所にお問い合わせください。 ※保健組合の患者輸送車は通常通り運行します。